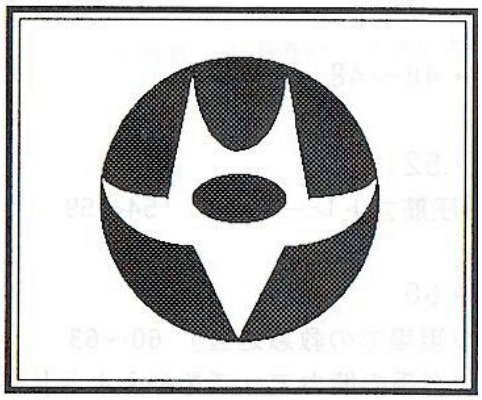
ISSN　1344-2473
Hiroshima-ken trainer Kyokai nenkaishi

Journal of Hiroshima Trainers Association

広島県トレーナー協会 年会誌

第 26 巻　2024



広島県トレーナー協会
HIROSHIMA TRAINERS ASSOCIATION

目次

国民スポーツ大会（中国ブロック大会・SAGA2024 国スポ）
活動報告書

競技種目（種別）　水泳（競泳）
所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　田村　佑樹----------1

競技種目（種別）　自転車競技（男子 A・男子 B・女子）
所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　有馬　知志----------3

競技種目（種別）　剣道（成年男子）
所属　中国電力(株)中電病院
氏名　山本　真士----------5

競技種目（種別）　陸上競技　（全種別）
所属　おかもと整形外科クリニック
氏名　相原　一勢----------8

競技種目（種別）　ホッケー（成年女子）
所属　おかもと整形外科クリニック
氏名　相原　一勢----------11

競技種目（種別）ハンドボール（少年男子）
所属　Empower Life
氏名　大岡　恒雄----------15

競技種目（種別）　ハンドボール（成年男子）
所属　浜脇整形外科リハビリセンター　リハビリテーション科
氏名　園生　真弘----------18

競技種目（種別）　バスケットボール（少年男子）
所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　尾上　仁志----------20

競技種目（種別）　バスケットボール（成年男子）
所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　小田さくら----------23

競技種目（種別）　卓球（一般卓球）
所属　広島大学大学院スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　長尾　拓海----------25

競技種目（種別）　ラグビーフットボール競技（成年男子）
所属　朝日医療専門学校広島校
氏名　河原　一仁----------27

全国障害者スポーツ大会
活動報告書

競技種目（種別）　陸上競技
所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　小田さくら、小柳　円香----------29

競技種目（種別）　陸上競技
所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　田村 佑樹----------31

競技種目（種別）　ボウリング
所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　吉荒瑠莉奈----------33

協会活動報告（2024 年度）----------36

広島県トレーナー協会規約 ----------37

編集後記----------44

投稿規定----------45

国民スポーツ大会

（中国ブロック大会・SAGA2024 国スポ）

活動報告書

国民スポーツ大会（中国ブロック大会・本国）

競技種目（種別）　水泳（競泳）

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　田村佑樹

【はじめに】

この度、第78回国民スポーツ大会(SAGA2024)の水泳（競泳）競技に広島県選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、ここに報告する。

【事前準備】

国体内定選手(少年)を対象に、7月29日(月)～8月2日（金）の日程で、広島総合屋内プール（ひろしんビッグウェーブ)にて強化合宿が行われた。本大会での入賞に向けて、水中練習前のウォーミングアップ、練習後のクーリングダウンの指導に加え、陸上での体幹トレーニング等の指導を実施した。また、宿舎のホテルでは疲労が蓄積した選手に対するケアおよびアイシングなどのセルフケアの方法を指導した。

9月11日（水）～9月13日（金）の3日間は、福岡県北九州市の桃園市民プールにて国民スポーツ大会の事前調整合宿が行われた。強化合宿と同様に、水中練習前のウォーミングアップ指導等に加え、8月の全国大会の連戦で疲労が蓄積した選手が多かったため、疲労回復を目的としたコンディショニング対応を行った。アイシングなどで使用する氷については、宿舎や最寄りのコンビニエンスストアで調達し、常に不足がないようにクーラーボックスで管理した。

【活動内容】

9月13日（金）には佐賀県の宿舎へ移動し、前日練習に参加した。本大会は9月14日（土）～9月16日（月）の期間で、SAGAアクアにて開催された（**図1**）。広島県選手団は監督1名、コーチ4名、医師1名、トレーナー1名、成年選手4名、少年選手11名のチーム編成であった。

大会期間中の主な活動内容は、レース前後でのコンディショニング対応だった。出場選手や監督、担当コーチと相談し、レース時間と水中アップの時間を考慮して、対応時間を決定した。選手から要望があった場合は、陸上でのセットアップや、持参したゴムチューブを用いた運動を指導した。宿舎では翌日にレースを控える選手を優先とし、ケアおよびコンディショニングを実施した。

大会期間中の外傷発生として、飛び込み動作で股関節内転筋を痛めたものがあった。内出血など視覚的所見はなく、歩行も可能だったが、圧痛と水中キック動作での疼痛が主訴であった。医師と相談し、症状と発生状況から軽度の筋損傷と考え、RICE処置にて対応した。

【結果】

広島県選手団の入賞者は以下の通りである。

・成年男子100m平泳ぎ　第4位
・成年男子100mバタフライ　第4位
・少年男子B100m自由形　第2位
・少年男子B400m自由形　第6位
・少年女子A400m個人メドレー　第8位
・少年女子B100mバタフライ　第8位

以上、広島県選手団は合計 22 点を獲得した。

【反省】

前年の燃ゆる感動かごしま国体では、入賞者が3名であったのに比べ、本大会は5名（6種目）が入賞したことから、チーム一同満足の多い大会となった。私自身は初のトレーナー帯同だったが、レース時間を考慮したスケジュール管理や選手に応じたトレーニングの負荷設定などで重要性と難しさを痛感する大会となった。また、セルフケアの指導、トレーニング原理の共有といった、医療従事者として選手教育の必要性も学び、今後の活動に生かしていきたいと思った。

最後にはなりますが、本大会に帯同する機会をいただいた広島県スポーツ協会、広島県水泳連盟、広島県トレーナー協会の皆様に心より感謝申し上げます。

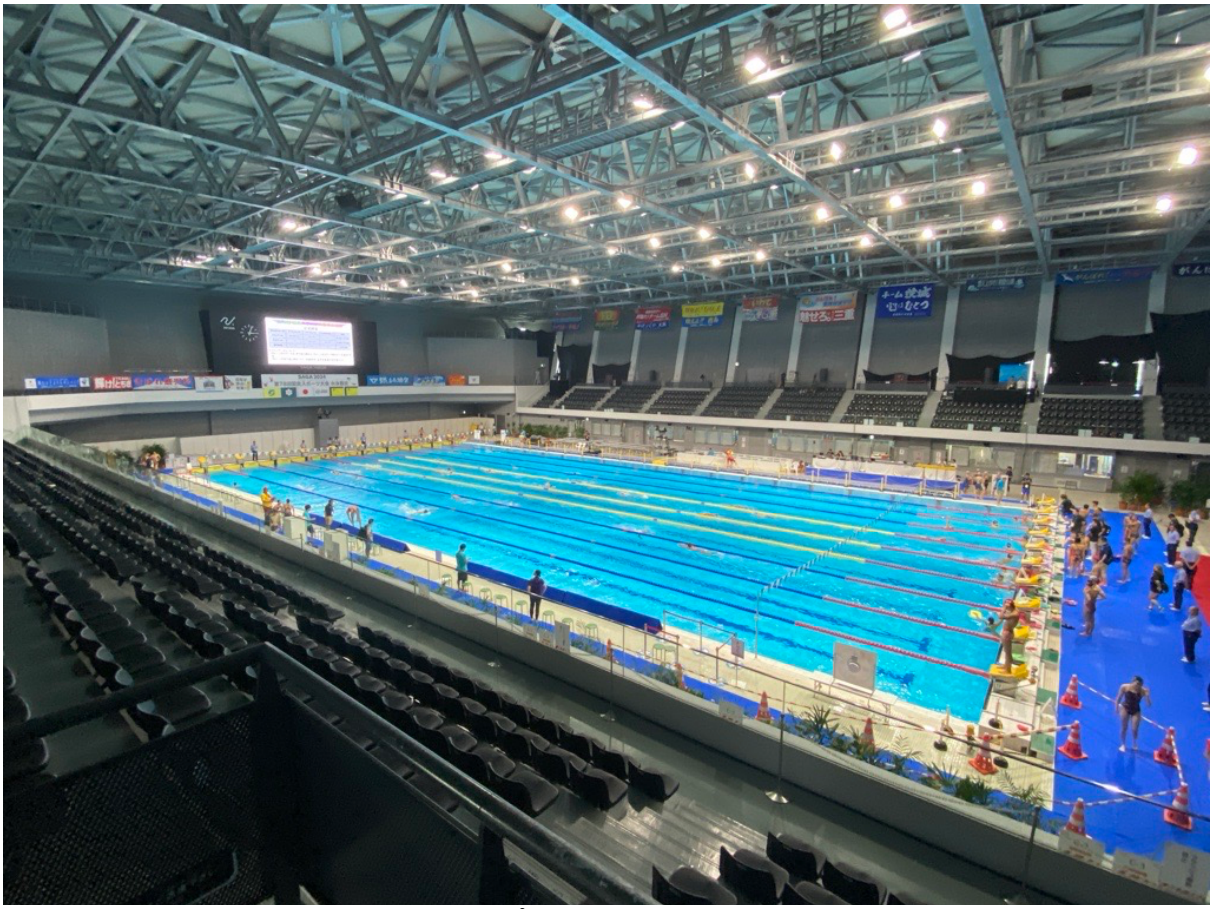


図 1. 会場となった SAGA アクアメインプール

第 78 回国民スポーツ大会（SAGA2024 本国）

競技種目（種別）　自転車（男子 A・男子 B・女子）

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　有馬　知志

【はじめに】

この度、第 78 回国民スポーツ大会(SAGA2024)での自転車競技に広島県選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、そこでの経験についてここに報告する。

【事前準備】

第 78 回国民スポーツ大会の帯同に先立ち、参加選手と監督、コーチ、トレーナー全員での事前合宿が令和 6 年 9 月 28 日～29 日の 2 日間にわたり、玉野競輪場（岡山県）で泊まり込みで実施された。報告者自身が広島県選手団の自転車競技に携わるのが、この合宿が最初となった。そのため、大会本番での十分なサポートに向けて、まず初めに選手の身体状況の確認といった選手の基本情報の把握から実施した。その後、大会本番でベストなパフォーマンスを発揮するために、練習前のウォーミングアップ、練習後のストレッチングに加え、選手の身体状況に応じて補強トレーニングを必要に応じて個別に確認、指導を行った。

またトレーナー物品の事前準備に関して、自転車競技では競技の特徴として、落車による擦過傷や打撲、出血等への応急処置対応が多い傾向にある。そのため、アイシングやガーゼ、保護フィルム、バンテージ等の応急処置のための物品を大会期間中の雨天予報も踏まえて多めに準備を行った。

【活動内容】

広島県選手団の構成は、監督 2 名、コーチ 1 名、トレーナー2 名、男子 A 選手 3 名、男子 B 選手 3 名、女子選手 2 名の計 13 であった

広島県から大会前半に実施されるトラックレースの会場である大分県までの移動を公式練習の前日である 10/4（金）に行った。移動日は、練習等はできなかったため、要望のある選手や必要な選手に対して、リコンディショニングやトレーニング対応をトレーナーの活動として実施した。10/5（土）の公式練習自体も 1 時間程度と短かったこともあり、前日と同様に要望のある選手や必要な選手に対して、リコンディショニングやトレーニング対応を時間を取って実施した。

大会は、10/6（日）~10/9（水）にトラックレース（佐賀県）、10/10（木）にロードレース（大分県）と別会場でそれぞれ実施された。大会全期間を通して、試合前後のコンディショニングは、選手ごとにレース時間が異なるため、選手、監督と相談し対応を行った。試合後は、宿舎に移動し主にリコンディショニングを目的とした対応を選手の要望に応じて実施した。対応件数は 24 件で、1 件あたりの対応時間は 30 分程度であった。対象部位は大腿が 15 件と最多であり、次いで腰部が 10 件、下腿が 9 件であった。自転車に乗る姿勢保持やペダリングの影響から記載した部位での症状の訴えが多かったと予想された。対応内容としては、ストレッチとマッサージがそれぞれ 24 件と全ての対応で実施した。対応の頻度や種類、長さは選手の要望や状況に応じてトレーナーからも内容を提示し相談の上実施した。

【結果】

大会を通しての結果としては、男子 A 1km タイムトライアル 5 位入賞、女子ポイント・レース 4 位入賞、女子個人ロードレース 46.4km 8 位入賞と 3 つの入賞を広島県選手団として獲得することができた。前年までの結果と比較すると、入賞を取りこぼした種目もあったため、今後さらなる結果の飛躍を目指す必要があると感じた結果であった。

【反省】

報告者自身が、広島県選手団の自転車競技に関わることが今回が初めてであった中で、事前合宿への参加も行いながら、大会本番での有意義なサポートに向けた下準備をしっかりと行えたことは非常によかったと感じている。

まだまだ自転車競技特有の身体フォームや動かし方によって生じる身体症状の予測やそれに対する適切な対応、また落車による重大事故も含めた救急対応に関しては、報告者自身のスキル、経験も含めて不十分であると感じる部分もあったため、そこは次回以降の改善点である。今後サポートする機会をいただけた際には、今回以上の事前準備や対応への予測を行いながら、よりよい自転車競技へのサポートにつなげていきたい。

最後に、本大会に帯同する大変貴重な機会を与えてくださいました皆様に心より感謝申し上げます。

競技種目	自転車競技
種別	男子A・男子B・女子
帯同期間	2023年10月4日（金）～10月10日（木）
競技会場	武雄競輪場（トラックレース）、オートポリス（ロードレース）
選手	男性6名、女性2名
スタッフ	監督2名（男女）、コーチ1名、トレーナー2名
競技成績	男子A 5位入賞、女子4位入賞・8位入賞

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	0
②	顔面	0
③	歯・口腔・顎	0
④	頸部	0
⑤	肩・鎖骨	1
⑥	上腕	0
⑦	肘	0
⑧	前腕	0
⑨	手	0
⑩	手指	0
⑪	背部	5
⑫	胸部	0
⑬	腹部	0
⑭	腰部	10
⑮	臀部	0
⑯	股・鼠径部	0
⑰	大腿	15
⑱	膝	0
⑲	下腿・アキレス腱	9
⑳	足	0
㉑	足趾	8
㉒	その他	0

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	0
②	打撲	1
③	骨折	0
④	脱臼	0
⑤	靭帯断裂	0
⑥	筋断裂/肉ばなれ	0
⑦	腱断裂	0
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	0
⑨	筋膜炎	0
⑩	骨膜炎	0
⑪	擦過傷	1
⑫	刺切傷	0
⑬	その他	0

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	3
②	疲労回復	24
③	リラクゼーション	24
④	筋力増強	0
⑤	可動域改善	2
⑥	安静固定	0
⑦	消毒	0
⑧	止血	1
⑨	その他	0

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	0
②	テーピング	0
③	弾性包帯	3
④	簡易装具	0
⑤	マッサージ	18
⑥	ストレッチング	18
⑦	マニュアルセラピー	0
⑧	ホットパック	0
⑨	足低板	0
⑩	超音波	0
⑪	低周波	0
⑫	水治療	0
⑬	その他	0

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	6
②	宿舎	18
③	医療機関	0
④	その他	0

国民スポーツ大会（本国）

競技種目（種別）　剣道(成年男子)

所属　中国電力(株)中電病院
氏名　山本　真士

【はじめに】
第 78 回国民スポーツ大会「SAGA2024」において、剣道競技(成年男子)のトレーナーとして帯同する機会を得たので報告する。

【事前準備】
成年男子の予定として、事前強化合宿(8 月 24 日～25 日)、近隣県との強化練習会(9 月 7 日～8 日)に参加した。事前強化合宿が選手と初めての顔合わせとなったため、主に選手の把握と障害の有無、内服薬等についての確認を行った。これまでの帯同経験から、スムーズに情報共有を図ることが出来た。

【活動内容】
剣道競技は 9 月 28 日～30 日に佐賀県神埼市の神崎中央公園体育館で開催され、成年男子は 9 月 29 日～30 日に試合が行われた。9 月 27 日に佐賀県に移動し、同日は選手、スタッフミーティングのみ実施した。事前の合宿で顔合わせが出来なかった選手については初顔合わせとなり、選手の把握や障害の有無等について確認を行った。28 日には会場近くの練習会場(小学校体育館)にて試合に向けた調整稽古を行い、試合に備えた。その際に、必要に応じて、コンディションの状態について確認等を行った。
宿舎と会場の移動は 30 分程度であったが、天候は良好であり、大きなトラブル等が生じることはなかった。
選手 5 人のうち 1 名は大会前の稽古で TFCC 損傷を生じていたが、かかりつけ医のトレーナーに固定方法等の指導を受けていたことから、主に状況確認等を行った。また、別の選手は既往に下腿三頭筋損傷があり、大会直前の稽古において、再発するといった事例が発生した。試合ではテーピング固定と試合後のアイシングで対応を行い、帰広後の病院受診を指示した。
大会前に実施された事前強化練習会(9 月 7 日～8 日)では、西日本を中心に全国各地から代表チームが広島に集まり、強化練習会が行われた。昨年は本練習会において他県から参加した選手が負傷するといったことがあり、本年は練習会の医療係としての役割も担ったが、大きなトラブルなどが生じることなく終えることができた。

【結果】
2 回戦：○広島県 3 - 1 ×群馬県
3 回戦：×広島県 0－3 ○大阪府
3 回戦敗退(ベスト 16)

【反省】
事前の準備として、事前強化合宿や事前強化練習に参加することで選手とのコミュニケーションを図ることができ、一部の選手については状態把握が可能であった。これらに参加できなかった選手については会場入りした後に把握する必要があった。
大会前に TFCC 損傷を生じた選手については、対応方法やテーピング方法について、選手から聞き取りを行ったが、普段対応しているトレーナーからの情報共有があるとより良いと感じた。
普段から高いレベルで稽古を行っている選手が大半であり、競技歴が長く，古傷を抱えている選手が多いことも特徴的である。既往を十分に把握したうえで、再発等が生じる可能性のある障害については十分に備えておくことが必要であると感じた。
最後に、帯同の機会を与えてくださいました広島県スポーツ協会、広島県剣道連盟、広島県トレーナー協会、そして大会への帯同にご理解いただいた中電病院スタッフの皆様に感謝申し上げます。

剣道（成年男子）

競技種目	剣道
種別	成年男子
帯同期間	2024年9月27日～2024年9月30日(4日間)
競技会場	神崎中央公園体育館
選手	5名
スタッフ	監督1名、コーチ1名、トレーナー1名、連盟スタッフ2名
競技成績	3回戦敗退(ベスト16)

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	2
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	1
⑮	臀部	1
⑯	股・鼠径部	
⑰	大腿	1
⑱	膝	
⑲	下腿・アキレス腱	7
⑳	足	
㉑	足趾	
㉒	その他	

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	1
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	1
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	2
②	疲労回復	4
③	リラクゼーション	4
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	
⑥	安静固定	2
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	2
②	テーピング	2
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	4
⑥	ストレッチング	4
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	4
②	宿舎	
③	医療機関	
④	その他	8

ＳＡＧＡ２０２４国民スポーツ大会

競技種目（種別）陸上競技（全種別）

所属　おかもと整形外科クリニック
氏名　相原 一勢

【はじめに】

ＳＡＧＡ２０２４国民スポーツ大会陸上競技の部において、広島県選手団にトレーナーとして帯同する機会を得たので、事前準備を含めた活動内容について報告する。

【事前準備】

本大会まで広島県スポーツ協会スポーツ医・科学サポート事業を利用して、少年国体候補選手に対し年間を通して訪問し、フィールドテストによる状態の確認、競技力向上を目的としたセルフコンディショニング指導や教育を行った。候補選手が所属する計１１校に、国体トレーナーを含めた計７名のトレーナーがこの事業に参加し、選手の情報共有を行いながら継続的にサポートを行った。

例年、大会に向けて強化合宿が２回行われる。１回目は現地の佐賀県での合宿が難しかったため、８月１２～１４日に来年度開催地の滋賀県で行われ、トレーナー１名が帯同した。２回目は９月１５日～１６日に広島で行われ、トレーナー３名が帯同した。２回目の合宿は少年選手のみの参加であったが、遠征に慣れていない選手もいるため、できるだけ多くコミュニケーションをとるように務め、選手の状態を確認するとともに集中して本大会に臨めるような環境づくりを行なった。また、メディカルチェックシートを作成し、選手のコンディションや服薬の情報をドクターやコーチ陣と共有し、本大会へ臨んだ。

【活動報告】

本大会は１０月１１日～１５日（帯同は１０日から）に、ＳＡＧＡサンライズパークＳＡＧＡスタジアムにて開催された。本大会は３名のトレーナーが大会前日から全日程を通して帯同した。ドクター１名は中３日間帯同であり、連携を取りながら活動した。主な活動内容は選手のコンディショニング管理であった。鎮痛や疲労除去を目的としたアイシングや物理療法機器を用いたケアやテーピングなどのコンディショニング、ドクターとの連携であった。対象部位は大腿部が最も多かった。気温が高い日が多かったので、積極的な水分補給を促した。

【結果】

優勝１名（成年男子走幅跳）、準優勝２名（成年男子１００m、少年男子共通５０００mW）、入賞８名
総合１６位（６１．５点　男子３８点、女子１３．５点）という結果であった。

【反省】

本大会期間中に怪我をした選手がいなかったことは良かったと思うが、体調不良（発熱、喉痛）をおこした選手がいた。ドクターと相談しながら対応し、回復してレースに出場することできたが、朝晩と日中の寒暖差の対応や宿舎での過ごし方など、我々が気を配らなければいけない点は多くあった。次大会以降に活かせればと思う。

最後に、今回このような帯同の機会をいただいた広島県スポーツ協会、広島県陸上競技協会、広島県トレーナー協会各位に深く感謝いたします。

陸上競技

2024 佐賀国スポ

競技種目	陸上競技
種別	全種別（成年・少年）
帯同期間	2024年10月10日～15日（6日間）
競技会場	SAGAサンライズパーク　SAGAスタジアム
選手	28名
スタッフ	監督2名、コーチ8名、ドクター1名、トレーナー3名
競技成績	第16位　（61.5点）

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	4
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	1
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	6
⑮	臀部	2
⑯	股・鼠径部	1
⑰	大腿	33
⑱	膝	4
⑲	下腿・アキレス腱	2
⑳	足	7
㉑	足趾	
㉒	その他	32

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靱帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	24
②	疲労回復	32
③	リラクゼーション	30
④	筋力増強	10
⑤	可動域改善	25
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	8
②	テーピング	13
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	76
⑥	ストレッチング	73
⑦	マニュアルセラピー	23
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	8
⑪	低周波	6
⑫	水治療	
⑬	その他	

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	56
②	宿舎	39
③	医療機関	
④	その他	

ＳＡＧＡ２０２４国民スポーツ大会（中国ブロック大会・本国）

競技種目（種別）　ホッケー（成年女子）

所属　おかもと整形外科クリニック
氏名　相原 一勢

【はじめに】

この度、ＳＡＧＡ２０２４国民スポーツ大会および中国ブロック大会においてホッケー成年女子チームのトレーナーとして帯同する機会を得たので、事前準備を含めた活動内容について報告する。

【事前準備】

今大会で帯同させていただいたチームは日頃よりトレーナー帯同している実業団単独チーム（コカ・コーラボトラーズジャパン ホッケー部）であったため、選手の体調やコンディショニング状況については日常から把握していた。

ホッケーは１１名でおこなう競技だが、国体はルール上、選手の登録人数が１４名と少なく、ホッケー競技は幾度でも選手交代が可能である為、ハードワークを強いられる。また、勝ち進めば、決勝まで3日連続での試合となるため、試合後の各選手のコンディションニング管理が特に重要となる。その為、帰宿後のスケジュールをスタッフ、選手とコミュニケーションを図りながら、把握し選手の身体ケアにかける時間をしっかり確保できるように行った。

【活動内容】

大会期間中の主な活動内容は、選手のコンディション管理、外傷時の応急処置、試合前後のケアやテーピングなどのコンディショニング、スタッフとの連携などであった。

中国ブロック大会は、８月２４日、２５日に島根県の三成公園ホッケー場にて開催された。今年も非常に気温が高く、熱中症予防のため、こまめな水分補給や塩分タブレットを摂取するよう促し、試合中には氷での冷却、試合後のアイスバスを用いた身体の冷却を重点的に行った。

本国体は１０月 5 日～9 日、国見台球技場、伊万里ホッケーフィールドにて開催され、１０月６日から１日１試合ずつ行われた。１４名という、交代の枠が限られた人数で、3日間連続で試合に臨まなければならない。試合後の疲労を蓄積させないよう、アイスバスでのリカバリーや物理療法機器を用いたコンディショニングを行った。

【結果】

中国ブロック大会　第１位

準決勝	７―０	鳥取県代表
決勝	９―０	山口県代表

本国体　優勝

準々決勝	４―１	香川県代表
準決勝	２―１	佐賀県代表
決勝	３―０	岐阜県代表

【反省】

昨年、一昨年と準優勝という結果だったため、優勝を目指して臨んだ国体であった。転倒による擦過傷はあったものの、特に大きな怪我なく優勝という結果を残せたことは良かったと思う。来年も連覇を目指し、トレーナーとしてサポートしていきたい。

最後になりましたが今回、このような帯同の機会をいただいた広島県体育協会、広島県ホッケー協会、広島県トレーナー協会各位、チームの選手やスタッフの方々、当院院長をはじめクリニック関係各位に深く感謝致します。

ホッケー（成年女子）

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	2
⑤	肩・鎖骨	1
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	5
⑮	臀部	1
⑯	股・鼠径部	2
⑰	大腿	7
⑱	膝	2
⑲	下腿・アキレス腱	6
⑳	足	
㉑	足趾	
㉒	その他	

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	4
②	疲労回復	6
③	リラクゼーション	6
④	筋力増強	1
⑤	可動域改善	8
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	4
②	テーピング	4
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	11
⑥	ストレッチング	10
⑦	マニュアルセラピー	1
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	6
⑪	低周波	4
⑫	水治療	
⑬	その他	

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	6
②	宿舎	12
③	医療機関	
④	その他	

2024 佐賀国スポ

競技種目	ホッケー
種別	成年女子
帯同期間	2023年10月6日～9日（4日間）
競技会場	国見台球技場、伊万里ホッケーフィールド
選手	14名
スタッフ	監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、トレーナー2名
競技成績	第1位

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	1
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	1
⑪	背部	3
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	14
⑮	臀部	5
⑯	股・鼠径部	3
⑰	大腿	17
⑱	膝	2
⑲	下腿・アキレス腱	13
⑳	足	7
㉑	足趾	3
㉒	その他	

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靱帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	1
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	8
②	疲労回復	22
③	リラクゼーション	11
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	19
⑥	安静固定	
⑦	消毒	1
⑧	止血	1
⑨	その他	

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	11
②	テーピング	9
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	25
⑥	ストレッチング	25
⑦	マニュアルセラピー	6
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	10
⑪	低周波	6
⑫	水治療	
⑬	その他	

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	10
②	宿舎	25
③	医療機関	
④	その他	

第 78 回国民スポーツ大会中国ブロック大会

競技種目（種別）ハンドボール（少年男子）

所属　Empower Life
氏名　大岡 恒雄

【はじめに】
　この度、第 78 回国民スポーツ大会中国ブロック大会にハンドボール少年男子のトレーナーとして帯同する機会を得たので報告する。
　広島県少年男子ハンドボールチームは選手 14 名、監督 1 名、コーチ 3 名、トレーナー1 名という構成であった。選手 14 名は県内 6 校から選抜されていた。本チームには 2021 年から帯同させていただいており、今回も監督・コーチはこれまでと同様のメンバーであった。

【事前準備】
　ブロック大会前の活動として、県内での強化練習会や県外遠征にも帯同した。今年度も 2 月ごろから強化練習会や選考会が開始され帯同した。ブロック大会前までの帯同日数は 6 日間であった。また、8 月 18 日～20 日の期間で福岡県への強化合宿（福岡大学）にも帯同した。
　強化練習会等では、全選手の既往歴や現病歴、服薬・アレルギーの有無などをメディカルチェックシートにて確認した。今夏も猛暑であったため、熱中症対策として水分・塩分補給を促し、食事指導も行った。また、コンディション管理として練習前後の体重測定を実施した。なお、ブロック大会直前に選手 1 名が新型コロナウイルス感染症と診断され、選手 13 名で大会に臨むことになった。

【活動内容】
　中国ブロック大会は 8 月 24 日～25 日に島根県松江市の松江市総合体育館で開催された。今年は少年男子の本国体への出場枠は 1 県であり、中国 5 県でのトーナメント戦であった。
　大会前日の 8 月 23 日から帯同し、午前中に広島市内にて最終調整の練習を実施してから島根に向かった。昨年同様に感染症対策を実施し、スタッフ間で十分に留意した。
　大会期間中の外傷としては、試合中に 1 名が足関節内反捻挫、1 名が下腿前面の擦過傷を受傷し、いずれも応急処置やテーピングを施行した。会場内は空調管理がされており、脱水などの熱中症はみられなかった。その他として、ウォーミングアップやクールダウンを実施した。

【結果】
中国ブロック大会　初戦敗退

大会 1 日目（8/24）　●広島県 21 – 41 岡山県

【反省】
　強化練習会や県外遠征などを実施して本国スポ出場を目指したが、初戦敗退で今年度も出場権を逃した。大会中ならびに大会直後にスタッフで今大会の反省や振り返りを行った。ここ数年、他県の強豪との差は歴然であり、本国スポ出場には遠ざかっている現状にスタッフ一同大きな危機感を抱いており、年間を通じた強化が必要との判断に至った。ブロック大会直後に強化スタッフおよび広島県ハンドボール協会で検討した結果、ハンドボール少年男子強化プロジェクトを発足することになり、次年度の国スポ出場を目指し 9 月 1 日から第 1 回目の強化プロジェクトが始動している。第 1 回目には次年度の選抜候補選手 30 名以上が参加し、トレーナーとして「アスリートに必要な食生活・生活習慣の改善」をテーマに選手・スタッフに講義をさせていただいた。また、本プロジェクトは月 1 回以上実施していくことを基本とし、年内までに 6 回開催を予定している。今後も本プロジェクトへの参加・協力を依頼されており、次年度以降の本国スポ出場に繋がるように尽力していきたい。
　最後に、今回も帯同の機会を与えてくださいました広島県体育協会、広島県ハンドボール協会、広島県トレーナー協会の皆様には深く感謝申し上げます。

ハンドボール（少年男子）

競技種目	ハンドボール
種別	少年男子
帯同期間	2024年8月24日～8月25日
競技会場	松江市総合体育館（島根県松江市）
選手	14名
スタッフ	監督1名、コーチ3名、トレーナー1名
競技成績	初戦敗退

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	3
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	
⑮	臀部	
⑯	股・鼠径部	
⑰	大腿	
⑱	膝	
⑲	下腿・アキレス腱	1
⑳	足	1
㉑	足趾	
㉒	その他	

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	1
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	1
⑫	刺切傷	
⑬	その他	3

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	
②	疲労回復	3
③	リラクゼーション	
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	
⑥	安静固定	
⑦	消毒	1
⑧	止血	1
⑨	その他	

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	4
②	テーピング	1
③	弾性包帯	1
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	
⑥	ストレッチング	
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	5
②	宿舎	
③	医療機関	
④	その他	

第 78 回国民スポーツ大会（本大会）

競技種目（種別）ハンドボール（成年男子）

所属　浜脇整形外科リハビリセンター　リハビリテーション科
氏名　園生　真弘

【はじめに】
今大会より名称が「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へ変更となった。
この度、ハンドボール成年男子チームのトレーナーとして帯同する機会を得たので、事前準備を含めた活動内容について報告する。

【事前準備】
救急外傷等に対する応急処置が行えるよう、必要備品の入ったトレーナーバッグの準備を行った。チームは日常的に帯同をしている実業団単独チームであったため、選手の体調や既往歴、コンディション等については概ね把握していた。
昨年度よりアンチ・ドーピング教育の受講が義務づけられている。日本スポーツ協会が配信している教材・ウェビナー動画にて受講。教育履歴カードに受講履歴を記入し持参した。

【活動内容】
試合前日（2024/10/9）よりホテル入りし選手の体調確認やコンディショニング、監督との情報共有等を行った。
試合当日は試合前希望者に対して、コンディショニングおよびテーピングを実施した。
ホテル到着後、選手の状態確認および希望者に対してケア対応を行った。選手の希望に応じて筋疲労部位への徒手療法、電気刺激装置を用いて物理療法を行った。

2024/10/11　試合中に急性外傷が発生した。オフェンスにてカッティング動作をしたさいに左膝を受傷し転倒。搬送口付近に医療スタッフが在中しており、選手を担架で移動させた。理学所見にて骨折等の緊急性がないこと確認し、ベンチにてアイシングを行った。荷重時痛が残存しており、松葉杖使用を試みたが会場にないとのことで介助者をつけ極力免荷で移動した。
受傷日が週末であったため近隣医療機関を一緒に受診した。画像所見にて、骨折はなし、安静度確認。MRI は予約の関係で撮影困難とのことで緊急性も低いため帰広後受診予定となった。
→選手より左膝前十字靭帯部分損傷、左膝外側半月板損傷、脛骨骨挫傷と診断受けたと報告あり。

【結果】
国民スポーツ大会　2 回戦敗退
1 回戦　36-23　和歌山県代表
2 回戦　32-38　宮城県代表

【反省】
選手負傷時、医療スタッフに受診希望し診療依頼書という書類に必要事項記入。救急搬送以外は自身で医療機関を探し、受診するよう言われ近隣医療機関を探した。試合前に、会場に設置してある医療器具の確認や近隣医療機関および移動手段を確認しておくべきだった。

最後にこのような機会を与えていただいた広島県スポーツ協会、広島県ハンドボール協会、広島県トレーナー協会各位、チームの選手やスタッフの方々、当法人会長をはじめ職場関係各位に深く感謝致します。

2024 佐賀国スポ

競技種目	ハンドボール
種別	成年男子
帯同期間	2024/10/9～10/12
競技会場	トヨタ紡織九州クレインアリーナ
選手	12名
スタッフ	監督1名 トレーナー1名
競技成績	2回戦敗退

トレーナー活動集計表

項 目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	3
⑤	肩・鎖骨	3
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	5
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	9
⑮	臀部	3
⑯	股・鼠径部	
⑰	大腿	5
⑱	膝	4
⑲	下腿・アキレス腱	9
⑳	足	3
㉑	足趾	
㉒	その他	

項 目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	1
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靱帯断裂	1
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項 目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	5
②	疲労回復	16
③	リラクゼーション	16
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	3
⑥	安静固定	1
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	1

項 目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	1
②	テーピング	5
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	16
⑥	ストレッチング	16
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	5
⑫	水治療	
⑬	その他	

項 目	対処場所	延べ件数
①	現場	10
②	宿舎	16
③	医療機関	1
④	その他	

国民スポーツ大会（中国ブロック大会・本国）

競技種目（種別）バスケットボール（少年男子）

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　尾上　仁志

【はじめに】

この度、第 78 回国民スポーツ大会中国ブロック大会・SAGA2024 国民スポーツ大会に出場したバスケットボール競技少年男子のトレーナーとして帯同する機会を得たので報告する。チーム構成は監督 1 名、コーチ 2 名、マネージャー1 名、医師 1 名、トレーナー1 名、選手 12 名であった。

【事前準備】

はじめに問診票を記入してもらい、選手個人の現病歴や既往歴を聴取した。加えて、服薬状況も確認し監督やコーチと共有した。練習前後で体重測定を行い、コンディショニングの把握に努めた（図 1）。練習の前後で体重減少が多い選手の特徴は、日々の練習環境に冷房が完備されている選手にみられた。そのため、飲水の確認や摂取量を注意深く管理した。また、日々の体重の結果をチームスタッフと共有しながら活動した。

ID	練習前(kg)	練習後(kg)	減少量(kg)	2%以上は注意
1	86.00	85.40	-0.60	0.70%
2	64.75	64.45	-0.30	0.46%
3	78.15	77.15	-1.00	1.28%
4	69.35	68.50	-0.85	1.23%
5	69.50	69.45	-0.05	0.07%
6	60.30	58.65	-1.65	2.74%
7	80.50	80.45	-0.05	0.06%
8	70.80	70.50	-0.30	0.42%
9	61.90	61.95	0.05	-0.08%
10	56.90	56.75	-0.15	0.26%
11	73.30	71.55	-1.75	2.39%
12	75.80	74.95	-0.85	1.12%
13	70.05	68.45	-1.60	2.28%
14	63.35	62.90	-0.45	0.71%

図 1：練習前後の体重測定の結果

【活動内容】

第 78 回国民スポーツ大会中国ブロック大会は、2024 年 8 月 17-18 日の期間で開催された。

8 月 16 日は公開練習を行い、良い雰囲気で終えることができた。宿舎では、アイシングやストレッチを中心に実施した。

8 月 17 日は 2 試合行われた。1 回戦の岡山戦、2 回戦の山口戦の前にそれぞれ足関節内がえし捻挫予防のテーピングを 4 件実施した。試合中に急性外傷は発生しなかった。宿舎では選手それぞれの部屋を訪問し、アイシングやストレッチなどのリコンディショニングに努めた。

8 月 18 日も 2 試合行われた。3 回戦の鳥取戦、4 回戦の島根戦の前に足関節内がえし捻挫予防のテーピングをそれぞれ 4 件実施した。試合中に急性外傷は発生しなかった。

SAGA2024 国民スポーツ大会では 10 月 10 日に 1 回戦が行われた。私は、試合の前日に選手と合流し宿舎でストレッチなどのリコンディショニングを実施した。大会当日は足関節内がえし捻挫予防のテーピングをそれぞれ 4 件実施した。

【結果】

<u>中国ブロック大会</u>

会場：松江市総合体育館（島根県）

（大会 1 日目）

〇広島　61 対 56 岡山

〇広島　60 対 51 山口

（大会 2 日目）

●広島　62 対 67 鳥取

〇広島　88 対 74 島根

※3 勝 1 敗で中国ブロック 1 位となり SAGA2024 国民スポーツ大会に出場した。

SAGA2024 国民スポーツ大会

会場：唐津市文化体育館（佐賀県）

1 回戦　●広島　67 対 75 沖縄

【反省】

はじめに、数ヶ月にも及ぶ活動期間で大きな外傷は発生せず活動を終えることができた。SAGA2024 国民スポーツ大会では、あと一歩のところで勝利まで届かず、選手のコンディショニングを最大限まで引き出すことが重要だと感じた。また、自チームでの練習を行いながら練習に参加している選手が大半をしめるため、負荷の調整などもスタッフと共有していく必要がある。

最後にこのような貴重な機会を与えて下さった広島県スポーツ協会、広島県バスケットボール協会、広島県トレーナー協会の皆様に深謝いたします。

中国ブロック大会

競技種目	バスケットボール
種別	少年男子
帯同期間	2024/8/17 ～ 8/18
競技会場	松江市総合体育館
選手	12名
スタッフ	監督1名、コーチ2名、医師1名
競技成績	1位

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	2
⑮	臀部	2
⑯	股・鼠径部	2
⑰	大腿	4
⑱	膝	
⑲	下腿・アキレス腱	3
⑳	足	4
㉑	足趾	
㉒	その他	

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	5
②	疲労回復	
③	リラクゼーション	6
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	4
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	
②	テーピング	4
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	
⑥	ストレッチング	8
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	4
②	宿舎	8
③	医療機関	
④	その他	

SAGA2024　国民スポーツ大会

競技種目	バスケットボール
種別	少年男子
帯同期間	2024/10/10
競技会場	唐津市文化体育館
選手	12名
スタッフ	監督1名、コーチ2名、医師1名
競技成績	1回戦敗退

トレーナー活動集計表

項　目	対象部位	延べ件数
①	頭部	
②	顔面	
③	歯・口腔・顎	
④	頸部	
⑤	肩・鎖骨	
⑥	上腕	
⑦	肘	
⑧	前腕	
⑨	手	
⑩	手指	
⑪	背部	
⑫	胸部	
⑬	腹部	
⑭	腰部	2
⑮	臀部	1
⑯	股・鼠径部	1
⑰	大腿	2
⑱	膝	
⑲	下腿・アキレス腱	1
⑳	足	2
㉑	足趾	
㉒	その他	

項　目	外傷	延べ件数
①	捻挫	
②	打撲	
③	骨折	
④	脱臼	
⑤	靭帯断裂	
⑥	筋断裂/肉ばなれ	
⑦	腱断裂	
⑧	軟骨損傷（半月板損傷も含む）	
⑨	筋膜炎	
⑩	骨膜炎	
⑪	擦過傷	
⑫	刺切傷	
⑬	その他	

項　目	治療目的	延べ件数
①	鎮痛	2
②	疲労回復	
③	リラクゼーション	4
④	筋力増強	
⑤	可動域改善	2
⑥	安静固定	
⑦	消毒	
⑧	止血	
⑨	その他	

項　目	治療内容	延べ件数
①	アイシング	
②	テーピング	4
③	弾性包帯	
④	簡易装具	
⑤	マッサージ	
⑥	ストレッチング	3
⑦	マニュアルセラピー	
⑧	ホットパック	
⑨	足低板	
⑩	超音波	
⑪	低周波	
⑫	水治療	
⑬	その他	

項　目	対処場所	延べ件数
①	現場	4
②	宿舎	4
③	医療機関	
④	その他	

国民スポーツ大会（中国ブロック大会）

競技種目（種別）バスケットボール（成年男子）

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　小田さくら

【はじめに】

この度、特別国民スポーツ大会中国ブロック大会のバスケットボール競技に広島県成年男子選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、活動内容を報告する。

【事前準備】

大会までの練習期間中には、監督およびコーチなどスタッフ陣と、選手の怪我やコンディションについて情報共有を行い綿密なコミュニケーションをとった。7 月から 8 月にかけては特に気温が高く、体育館内の WBGT が厳重警戒レベルになることも多かったため、選手分の OS-1 を常備し対応した。

中国ブロック大会前の事前強化合宿として、8 月 10 日（土）～8 月 11 日（日）の 2 日間に愛媛県の伊予市民体育館で練習試合が行われた。試合前はウォーミングアップの指導やテーピング対応（足関節内がえし捻挫予防目的 4 足）、試合後にはアイシングやストレッチングを実施した。2 日間の練習試合を通して、足関節内がえし捻挫が 1 件発生したため、圧迫やアイシング等の応急処置で対応した。

【活動内容】

中国ブロック大会は、8 月 17 日（土）～8 月 18 日（日）の 2 日間に、島根県松江市総合体育館で開催された（**図 1**）。成年男子バスケットボール競技の広島県選手団は、監督 1 名、コーチ 3 名、トレーナー1 名、選手 12 名のチーム構成であった。

8 月 16 日（金）の午前中に出発し、大会会場である松江市総合体育館にて約 1 時間の前日練習を行なった。前日練習で大きな外傷は発生しなかったが、練習前には足関節内がえし捻挫予防目的のテーピング、また疲労や慢性的な疼痛を有する選手には練習後もしくは宿舎にてストレッチングを実施した。

大会期間中には、主に試合前にテーピング対応（足関節・腰背部・肩関節・下腿）を、試合後にはストレッチング対応を実施した。大会 2 日目には、疲労による影響もあり筋痙攣や慢性的な腰痛の症状が悪化したりと対応数が増えた。感染予防対策として、選手の対応が終了するごとに、手指のアルコール消毒を行った。

【結果】

中国地区 5 県の総当たりで対戦した結果、結果は 1 勝 3 敗 5 位であり本国体出場には至らなかった。また結果の詳細は以下の通りである。

大会 1 日目
●広島県 72-74 鳥取県
●広島県 73-84 島根県
大会 2 日目
●広島県 71-78 山口県
○広島県 74-71 岡山県

【反省】

中国ブロック大会は、2 日間で 4 試合を行うことから、選手がいかに疲労が少なく万全のコンディションで試合に臨むことができるかが重要であると再認識した。またそのためには試合前後の対応だけでなく、日常的なケアから再度検討していく必要があるため、セルフケアの呼びかけや指導、資料の共有などを実施していくことが重要である。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会をいただいた広島県スポーツ協会、広島県バスケットボール協会、広島県トレーナー協会の皆様に心より感謝申し上げます。

図 1. 試合会場となった松江市総合体育館

第 23 回全国障害者スポーツ大会（SAGA 2024）

競技種目（種別） 卓球（一般卓球）

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　長尾拓海

【はじめに】

この度、第 23 回全国障害者スポーツ大会 SAGA 2024 に広島市選手団の卓球競技役員として帯同する機会をいただいたので報告する。

【事前準備】

同年の 7 月 6 日（土）に全国障害者スポーツ大会広島市代表内定選手や競技役員を対象に開催された第 1 回説明会を皮切りに、大会期間当日まで計 7 回の事前練習会を実施した。選手同士の顔合わせや、信頼関係の構築、大会までの目標設定等を主な目的として、競技の練習相手や練習スケジュールの調整、コンディショニング指導を実施した。第 2 回説明会は大会開催約 1 週間前の 10 月 19 日（土）に開催され、大会期間中の具体的な行動日程の確認や、荷物の事前配送等について確認した。事前準備期間では、もう 1 名の競技役員や広島市障害者スポーツ協会の関係者とも連携しながら、各選手の様子や収集した情報を密に共有し、移動日や大会前の公式練習日、閉会式を含めた大会期間中の動きを事前に相談し、当日の対応に備えた。

【活動内容】

10 月 24 日（木）に広島から宿泊先の福岡県に移動した。競技は 10 月 26 日（土）と 10 月 27 日（日）の 2 日間で開催された。広島市卓球競技選手団は、選手 5 名（肢体障がい 1 名、知的障がい 2 名、精神障がい 2 名）役員 2 名の計 7 名で構成された。

会場は佐賀県基山町にある基山町総合体育館であった（**図 1**）。

大会期間中は、引率・スケジュール管理、競技後のリコンディショニングを主に担当した。今年度から配布されたスケジュール表（広島市障害者スポーツ協会に作成いただいたもの）を活用しながら、選手自身で全体のスケジュールと個人のスケジュールを照らし合わせながら行動予定を確認していただくことで自立を促した。競技後のリコンディショニングに関しては、要望があった選手に対して体幹や下肢を中心としたリラクゼーションをはじめとして、ストレッチングや競技前のウォーミングアップ指導を 60 分程度実施した。その他にも食事後、就寝前の服薬管理、体調確認など活動内容は多岐に渡った。

【結果】

障がい区分ごとに 3 名から 4 名のリーグ戦を戦い、5 名の選手のうち 2 位が 3 名（知的障がい選手 2 名、精神障がい選手 1 名）、3 位が 2 名（肢体・精神障がい選手各 1 名）であった。

【反省】

金メダルを手にできた選手はおらず、目標を達成できなかった選手がほとんどであった。本大会は従来の大会と異なり競技会場と控え所が離れた位置にあったことで競技会場の雰囲気を感じることが難しかったと感じる（**図 1**）。また、競技時間までの待機時間が長く、試合開始序盤からパフォーマンスを最大限発揮しづらい環境であった。そのような状況下でのコンディションの調整方法について、事前に選手への情報共有や確認ができていれば、より良い結果になった可能性がある。限れた練習会の中でも、理学療法士として選手団内で密にコミュニケーションをとることの重要性を再認識した。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者各位に深く感謝申し上げます。

図 1. 競技会場（左）および控え所（右）の様子

SAGA 2024 国民スポーツ大会（中国ブロック大会・本大会）

競技種目（種別）ラグビーフットボール競技（成年男子）

所属　　朝日医療専門学校広島校
氏名　　河原　一仁

【はじめに】
SAGA 2024 国民スポーツ大会ラグビーフットボール競技成年男子の部の広島県選手団にトレーナーとして同行する機会を得たので報告する.

【事前準備】
ブロック大会前の実施された事前練習，遠征に同行し選手の外傷・傷害の状況，コンディションやテーピングの要望等の把握，そして選手とのコミュニケーションを積極的にとることに努めた.

【活動内容】
ブロック大会は 8 月 31 日，9 月 1 日の 2 日間にわたって浜山公園陸上競技場で行われた．4 連勝で本大会出場を決めることができた.
本大会は 10 月 7 日，8 日の 2 日間にわたって SAGA サンライズパークで行われた.
予選リーグは 4 チームの総当たり戦であったものが今年度から 3 チームの総当たり戦に変更になり，上位 2 チームが決勝トーナメントに進出するという形式である．7 人制の特徴は前後半 7 分ハーフ，ハーフタイム 1 分という競技時間となっておりブロック大会では 1 日で 2 試合，本国体では 1 日最大 3 試合行われる．さらに 1 日目は予選リーグの 24 試合をすべて行うことから，試合間の時間が 1 時間半以上空くこととなり選手のコンディション調整がとても重要になり，毎年とても苦労するところである．また天候も雨模様で試合間の過ごし方を難しくする要因となった.
活動内容としましては，会場ではウォーミングアップ，クールダウン，テーピング，ストレッチ，マッサージ，応急処置などを主に行い，宿舎では，ストレッチやマッサージ，電気治療等の対応を行った．今年度は前日移動ということもあり、選手はコンデション調整も難しかったようでケアを希望する選手も多かった。
外傷としては，眼窩底骨折，腰痛などや人工芝のグランドだったこともあり下腿部等の火傷・擦過傷が多く発生した.
広島県代表チームは，県内の実業団チームのマツダと中国電力の選手を中心に構成されており，普段からサポートしている選手とそうでない選手が混在していた．さらに予選と本戦とメンバーが入れ替わりも多かった為，
様々な場面で積極的に話しかけたりすることを意識したことで，本大会期間中はしっかりコミュニケーションをとりながらのサポートができた.
大会直前の怪我で選手を 1 名欠く状況であったが、少ないメンバー、少ないスタッフの中で結果としては 2 年連続の 3 位という素晴らしい成績を収めることが出来た.

【結果】
ブロック大会　優勝

本大会　予選プール
vs 長崎県　　(28-14) 勝
vs 和歌山県　　(19-14) 勝

本大会　決勝トーナメント
１回戦 vs 愛知県　　(35-21) 勝
準決勝 vs 佐賀県　　(28-7)　敗
３位決定戦 vs 新潟県 (26-14) 勝

【反省】
毎年であるが厳しいスケジュールの中，少ないスタッフでのサポートという環境の中で選手をいかにいい状態にコンディショニングしていくかにとても苦労した.
最後にこのような機会を与えていただいた広島県スポーツ協会，広島県ラグビーフットボール協会，広島県トレーナー協会の関係各位に感謝申し上げます.

ラグビーフットボール競技（成年男子）

全国障害者スポーツ大会

活動報告書

全国障害者スポーツ大会　SAGA 2024

競技種目（種別）陸上競技

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　小田さくら、小柳円香

【はじめに】

この度、第 23 回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 に広島市選手団の陸上競技役員として帯同する機会をいただいたので報告する。

【事前準備】

同年 8 月から計 4 回行われた合同練習会に参加した。当日までの時間は限られていたため、選手の性格把握や信頼関係の構築を目的に積極的にコミュニケーションをとった。保護者の方からは生活の自立度や苦手なこと、その対処法について情報収集を行った。他の競技役員の方が、日頃から障害者陸上競技に関わっており、本大会でのサポート経験もあったことから、選手がもつ能力、特徴の見方を教えていただいた。以上のような練習会で得た情報を基に、生活上の注意点と競技でのサポート内容を話し合い、当日に備えた。

【活動内容】

全国障害者スポーツ大会の陸上競技は、10 月 26 日（土）～10 月 28 日（月）の 3 日間で、SAGA スタジアムで開催された（**図 1**）。陸上競技広島市選手団は、役員 7 名、選手 8 名（知的障がい：4 名、身体障がい：4 名）の計 15 名のチーム構成であった。会場と宿舎間はバスで約 1 時間の距離であり、前日練習および大会期間中は同宿舎に宿泊していた他県の陸上競技チームと同乗して移動した。

10 月 24 日（木）に広島市を出発し宿舎がある福岡県に移動した。10 月 25 日（金）には前日練習を実施し、広島市選手団の控えテントからウォーミングアップ場や招集場までの動線を確認した。大会期間中は、控えテントからウォーミングアップ場、招集場までの移動の付き添いを中心に実施した。競技場内での介助が必要だと判断された選手については、介助申請を行い、許可が降りた場合には競技場内に同行し、靴や衣服の着脱等の介助を行った。宿舎では、選手全員がスタッフもしくは選手同士での相部屋であった。入浴に介助が必要な選手については、バリアフリー部屋を借り、女性スタッフ 3 名で入浴時の介助を行った。大会期間中の選手の体調や練習時の様子などの共有、翌日の動きを確認するために、スタッフでのミーティングを毎晩実施した。

【結果】

8 名の選手が障がい区分ごとに、個人種目 17 種目、団体種目 1 種目に出場し、4 種目で 1 位、2 種目で 2 位、1 種目で 3 位であった。

【反省】

広島市選手団の 8 名の選手たちは皆、良い結果であっても悪い結果であっても、またこのような全国の舞台に戻ってきたい、もっと頑張ると話しており、今後の糧となる大変重要な大会となったのではないかと考える。早朝にホテルを出発し、夜遅くにホテルに戻るスケジュールや、お弁当中心の食生活、寒暖差の激しい気候など、慣れない環境下で選手に疲労がみられる場面もあった。ホテルでの生活は、就寝時間と起床時間を選手と共有し、遵守させることが重要であった。また、知的障がいの選手では、本番前の緊張でその選手特有の症状が出たり、自分のスタート位置がわからなくなる選手がおり、それらを事前に予測して直前まで介助に入る対策を取ることができたのは良かった点である。親元を離れる経験が少ない選手にとって、本大会は自立の場でもある。そのため、全てに手を貸したり声掛けをしたりするのではなく、選手自身が考えて行動するように仕向けるという考え方がもっと必要であったと大会を終えて感じている。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者各位に心より御礼申し上げます。

図 1. 試合会場となった SAGA スタジアム

全国障害者スポーツ大会（中国ブロック大会・本国）

競技種目（種別）　陸上（広島県）

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　田村佑樹

【はじめに】

この度、第 23 回全国障害者スポーツ大会（SAGA2024）の陸上競技に、広島県代表選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、ここに報告する。

【事前準備】

本年の全国障害者スポーツ大会の陸上競技に広島県代表選手団として選考された選手およびコーチやトレーナーを含む役員は、7月14日（日）に広島県立総合リハビリテーションセンターで、事前説明会に参加した。事前説明会では、選手とスタッフ同士の顔合わせ、スケジュールの確認、大会期間中の注意事項などについて共有された。

事前説明会後から本大会までの期間では、8月18日（日）、9月15日（日）、10月20日（日）の計3回、東広島運動公園陸上競技場で練習会が行われた。各選手の出場種目に応じて担当コーチが割り振られ、技術的な指導や競技ルールの確認などが実施された。私たちトレーナーも帯同する役員として、移動といった日常生活動作のなかでどのようなサポートが必要であるか、選手本人やご家族とコミュニケーションをとり、確認した。

【活動内容】

10月24日（木）に広島コンベンションホールで結団壮行式が開催された。その後、広島駅から新幹線とバスを乗り継ぎ、福岡県久留米市の宿舎に移動した。10月25日（金）は、本大会会場であるSAGAサンライズパークで公式練習が実施され、10月26日（土）～28日（月）の3日間で競技が行われた（**図 1**）。今大会の広島県陸上競技選手団は身体障がい選手が5名、知的障がい選手が6名、役員が14名という構成であった。医療従事者としては、看護師が1名、理学療法士資格をもつトレーナーが2名帯同した。

大会期間中の主な活動内容は、選手の日常生活動作のサポート・介助であった。移動時の補助、食事配膳のサポート、競技スケジュールの管理をサポートするなど、選手が気兼ねなく競技に出場できるよう努めた。ただし、すべてを介助するのではなく、選手自身でできることはなるべく自分でしてもらい、必要がある場合だけサポートすることで、選手の自立を促すように注意した。

大会期間中の目立った外傷発生はなかったが、レース後の筋疲労を訴える選手に対して、ケアやアイシング、キネシオロジーテープでの対応等も実施した。

【結果】

広島県選手団のメダル獲得者は13名であった。

・立幅跳　区分04　1部　第1位
・立幅跳　区分27　少年　第1位
・立幅跳　区分27　少年　第2位
・走幅跳　区分01　1部　第3位
・ジャベリックスロー　区分25　2部　第2位
・ソフトボール投げ　区分27　少年　第2位
・ソフトボール投げ　区分04　1部　第2位
・ソフトボール投げ　区分24　2部　第2位
・砲丸投　区分24　2部　第2位
・50m　区分27　少年　第3位
・800m　区分27　青年　第3位
・100m　区分01　1部　第3位
・100m　区分25　2部　第3位

【反省】

本大会は、障がい者の社会参加の促進を目的としており、競技だけでなく日常生活内でも学びの多い帯同となった。その中で、過剰に選手を介助してしまう場面もあった。選手の自立を目指し、必要最低限でのサポートにする必要があったと反省するとともに、選手はなにができるかを把握するため、事前練習会などで本人やご家族とより密にコミュニケーションをとる重要性を感じた。

最後になりますが、今回の帯同機会をいただいた関係者各位に、心より感謝申し上げます。

図 1. 会場となった SAGA サンライズパーク

全国障害者スポーツ大会　SAGA 2024

競技種目（種別）ボウリング

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　吉荒瑠莉奈

【はじめに】

この度、10 月 24 日（木）から 29 日（火）の期間で、第 23 回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 に広島市選手団のボウリング競技役員として帯同する機会をいただいたので報告する。

【事前準備】

同年 8 月から計 6 回、事前の合同練習会が行われた。選手、監督、保護者の方から情報を収集して事前に準備できることを把握した。特に、アレルギーの情報や服薬状況、既往歴など、留意事項を確実に把握できたことから、事前の練習会に参加することの重要性を実感した。選手のなかには、てんかんをもっている方もいたため、発作の誘引条件の確認や発作時の対応について、監督や保護者の方と話し合い、当日に備えた。

【活動内容】

全国障害者スポーツ大会のボウリング競技は、10 月 26 日（土）および 27 日（日）の 2 日間に渡りボウルアーガスで開催された（**図 1**）。広島市ボウリング選手団は、役員 2 名、選手 2 名（2 名とも知的障がい）のチーム構成であった。10 月 25 日（金）には前日の公式練習に参加し、会場の床の滑り具合や投球動作の確認などを行った。会場によってオイルの張り方が異なるため、入念に選手と調整を重ねた。大会当日はボックスの後方で選手とコミュニケーションをとりながら、声掛けや投球動作のアドバイスを行った。

今大会の活動内容として、競技面でのサポートだけでなく、生活面のサポートを多く行った。身の回りの整理や片付けが苦手な選手は、大会用に荷物を入れ替えることが難しかったり、宿舎を出発する直前に忘れ物に気づくようなことが多かったりする場面がみられた。競技に集中する環境をつくるために、多方面からサポートを行った。「まず、次に」といった、順序が明確になるように説明をすることを心掛けた。また、競技に欠かせない持ち物は、必ず役員とダブルチェックを行った。帯同初期は、忘れ物や紛失があり競技に集中できずにストレスが溜まっている様子がみられたが、徐々に苦手を克服し始め、競技に集中できるようになったことは、選手にとって大きな成長であったと振り返る。

【結果】

選手 2 名とも年齢ごとのクラスに出場し、それぞれ少年の部で 2 位、青年の部で 2 位の成績を収めた。

【反省】

全国大会という大きな舞台で練習以上の力を発揮するために、どのような準備やサポートが必要かを考えさせられたが、選手にとって、日ごろの成果を試すことができたことで新たな目標がみつかった様子であり、スポーツ継続につながった大会になったのではないかと考える。

本大会は、競技の勝敗も重要視するが、選手の自立や社会参加というところに大きな目的を置いているところが特徴であると捉える。役員は、選手の苦手なことと得意なことを把握する力が求められる。そのためには、選手とのコミュニケーションや信頼関係の構築が欠かせない。手を貸す場面と引く場面の塩梅の調節が難しかったと振り返る。そして、選手の体の状態を観察、把握することは医療従事者として求められていた。知的障がいをかかえる選手は、自分の体の状態を申告することが苦手な場合もあった。障がいの理解と医療の知識は本大会に参加するうえで非常に重要であると考える。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者各位に心より御礼申し上げます。

図 1. 試合会場となったボウルアーガス

協会活動報告

協会活動報告

＜定期総会＞

日時：2024 年 6 月 8 日（土）

会場：オンライン

＜特別講演＞

「アスリートに対する熱中症対策と感染予防のコンディショニング」

日時：2024 年 6 月 8 日（土）

会場：オンライン

講師：吉田　忠明　氏（大塚製薬株式会社中国支店）

＜理事会＞

第 1 回：令和 6 年 6/8、第 2 回：8/8、第 3 回：9/12、第 4 回：10/17、第 5 回： 11/21、第 6 回：令和 7 年 3/6

＜広島県トレーナー協会創立 30 周年記念祝賀会＞

日時：令和 6 年 12 月 14 日（土）

会場：広島ガーデンパレス

広島県トレーナー協会規約

広島県トレーナー協会規約

第１章　総　則

第１条（名称）

本会は、広島県トレーナー協会（以下「協会」という）という。

第２条（事務所）

協会は、事務所を広島市に置く。

第３条（目的）

協会は、会員相互の知識、技術の研鑽を行うとともに、スポーツ選手及び愛好者に対するコンディショニングについての指導、啓発等を行うことにより、健全なスポーツの発展に資することを目的とする。

第４条（事業）

協会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

①　スポーツ選手に対するコンディショニングについての技術指導等のレベルアップを図るため、会員の研修を行うこと。

②　競技団体、学校などの要望により、必要なトレーナーを派遣すること。

③　その他協会の目的達成に必要な事業を行うこと。

第２章　会　員

第５条（会員となる資格）

協会の会員となる資格は、協会の目的に賛同する個人とする。

第６条（入会）

会員になろうとする者は、入会申込書を会長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

第７条（入会金及び会費）

（１）　会員になろうとする者は、総会において別に定める入会金を納入しなければならない。

（２）　会員は総会において別に定める会費を納入しなければならない。

第８条（退会）

（１）　会員は、退会しようとするときは、会長に届け出なければならない。

（２）　会員が死亡したときは、退会したものとみなす。

（３）　会費を２年間納入しないときは、退会したものとみなす。

第９条（除名）

（１）　会員が協会の名誉を棄損し、又はその設立の趣旨に反する行為をしたときは、総会において総会員の４分の３以上の議決により、これを除名することが出来る。

（２） 前項の規定により会員を除名しようとするときは、除名の決議を行う総会においてその会員の弁明の機会を与えねばならない。

第 10 条（提出金品の不返還）

退会し、または除名された会員がすでに納入した会費その他の提出金品は、返還しない。

第 3 章　役員及び職員

第 11 条（役員の種別及び選任）

（１） 総会に、次の役員を置く。

① 名誉会長　1 人

① 会長　　1 人

② 副会長　　3 人以内

③ 理事　　12 人以上 16 人以内（会長及び副会長を含む）

④ 監事　　2 人

但し、①においては、理事会において推薦し、総会において承認をえる。

（２） 理事は、総会において選任する。

（３） 理事及び監事は、相互に兼ねることが出来ない。

第 12 条（総務）

（１） 名誉会長は、協会の運営全般を統括する。

（２） 会長は、協会を代表し、会務を統括する。

（３） 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

（４） 理事は理事会を構成し、会務の執行を決定する。

（５） 監事は、民法（昭和 29 年法律 89 号）第 59 条の職務を行う。

第 13 条（任期）

（１） 役員の任期は、3 年とする。但し、補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（２） 役員は、再任されることができる。

（３） 役員は、辞任した場合又は任期終了の場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

第 14 条（解任）

（１） 役員に、役員としてふさわしくない行為があったときは、総会の議決により解任することができる。

（２） 第 9 条第 2 項の規定は、前項の規定により、役員を解任しようとする場合に準用する。この場合において、同項中「前項」とあるのは、「第 14 条第 1 項」と、「会員」とあるのは「役員」と、

「除名」とあるのは「解任」と読み替えるものとする。

第 15 条（事務局）

（1） 協会の事務を処理するために、事務局を設け、必要な職員をおく。

（2） 事務局に関し、必要な事項は、会長が別に定める。

第 4 章　会　議

第 16 条（種別）

協会の会議は、総会及び理事会の 2 種とし、総会は、通常総会及び臨時総会とする。

第 17 条（構成）

（1） 総会は、会員をもって構成する。

（2） 理事会は、理事をもって構成する。

第 18 条（権能）

（1） 総会は、この規定に別に規定するものの他、次の事項を議決する。

① 事業計画の決定

② 事業報告の承認

③ その他協会の運営に関する重要な事項

（2） 理事会は、この規約に別に規定するものの他、次の次回を議決する。

① 総会の議決した事項の執行に関すること

② 総会に付議すべき事項

③ その他総会の議決を要しない会務の執行に関すること

第 19 条（開催）

（1） 通常総会は、毎年 1 回以上開催する。

（2） 臨時総会は、理事会が必要と認めたとき又は会員の 5 分の 1 以上もしくは監事から会議の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。

（3） 理事会は、会長が必要と認めたとき又は理事会の 3 分の 1 以上から会議の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。

第 20 条（招集）

（1） 会議は、会員が招集する。

（2） 総会を招集するときは、会員に対し、会議の目的たる事項及びその無いようならびに日時及び場所を示して、開会の 7 日前までに文書をもって通知しなければならない。

第 21 条（議長）

（1） 総会の議長は、その総会において、出席会員の中から選任する。

（2） 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

第 22 条（定足数）

会議は、総会においては会員、理事会においては理事の 2 分の 1 以上の出席がなければ開催することができない。

第 23 条（議決）

（1） 総会の議事は、この規約に別に定めるものの他、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。この場合において、議長は会員として議決に加わる権利を有しない。

（2） 理事会の議事は、出席理事の過半数の同意をもって決する。

第 24 条（書面表決等）

やむを得ない理由のために会議に出席できない会員又は理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。この場合において、前 2 条の規定の適用については出席したものとする。

第 25 条（議事録）

（1） 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

① 会議の日時及び場所

② 会員又は理事の現在異数

③ 会議に出席した会員の数又は理事（会長及び副会長を含む）の氏名（書面表決者を含む）

④ 議決事項

⑤ 議事の経過及び要領並びに発言者の発言要旨

⑥ 議事録書名人の選任に関する事項

（2） 議事録には、議長及び出席した会員又は理事の中からその会議において選出された議事録署名人 2 名以上が書名しなければならない。

第 5 章　資産及び会計

第 26 条（資産の構成）

協会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

① 入会金及び会費

② 寄付金品

③ 事業に伴う収入

④ 資産から生じる収入

⑤ その他の収入

第 27 条（資産の管理）

資産は、会長が管理し、その方法は、理事会の議決により定める。

第 28 条（経費の支弁）

総会の経費は、資産をもって支弁する。

第 29 条（予算及び決算）

（1） 協会の収支予算は、年度開始前に総会の議決により定め、収支決算は年度終了後 2 ヶ月以内に、その年度末の財産目録とともに、監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。

（2） 年度開始前に予算が成立しないときは、成立する日まで前年度予算を施行する。

（3） 前項による収支は、新たに成立した予算に基づくものとみなす。

第 30 条（会計年度）

協会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第 6 章　顧　問

第 31 条（顧問）

（1） 協会に顧問を置くことができる。

（2） 顧問は、総会の推薦した者につき、会長が委嘱する。

（3） 顧問は、会長の諮問に応じる。

第 7 章　規約の変更及び解散

第 32 条（規約の変更）

この規約は、総会において会員の 4 分の 3 以上の同意を得なければならない。

第 33 条（解散及び残余財産の処分）

（1） 協会を解散しようとする場合は、総会において総会員の 4 分の 3 以上の同意を得なければならない。

（2） 解散の時に存する残余財産は、総会の議決を経て、協会と類似の目的を持つ団体に寄付するものとする。

第 8 章　雑　則

第 34 条（委任）

この規約の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

付則

本規約は平成 9 年 3 月 15 日より一部改正により施行。

本規約は平成 11 年 3 月 19 日より一部改正により施行。

本規約は平成 21 年 4 月 9 日より一部改正により施行。

広島県トレーナー協会細則

Ⅰ．理事に関する項

１． 本会の理事は、会長、副会長、理事とする。

２． 本会の理事は、理事会を持ち、本会の会務を執行する。

３． 本会の理事は、会務をそれぞれ担当し、円滑な運営に努める。

Ⅱ．監事に関する項

１．監事は、規約第 12 条により第 4 項の職務を行う。

Ⅲ．会務の運営に関する項

１．会長は、局・部及び委員会を置き、会務運営にあたる。

２．局長は、会長の任命を受けて局を統括する。

３．担当理事は、会長の任命を受けて部を統括する。

４．部長は、理事会の承認を得て会長の任命を受けて、部を運営する。部員は、部長が選任し会長が委嘱する。

５．委員長は、理事会の承認を得て会長の任命を受けて、委員会を運営する。委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

６．会長が必要と認めるとき、理事会の承認を得て特別委員会を時限的に置くことができる。

７．特別委員長は、理事会の承認を得て特別委員会を運営する。特別委員は特別委員長が選任し会長が委嘱する。

８．会長が必要と認めるとき、部長・委員長及び特別委員長は、理事会で意見を述べることができる。

９．局・部及び委員会の分掌規定は別に定める。

Ⅳ．会費に関する項

１． この会費は、年額 6,000 円とする。ただし、学生会員の会費及び 11 月第 4 日曜日以降に入会した会員の初年度会費を 3,000 円とする。

２． この会の登録料は、3,000 円とする。

３． 本会の会費は、原則として 7 月 31 日までに全納するものとし、会費が納入された時点で会員としての議決権を得るものとする。

４． 退会する会員が退会以前に登録料・年会費を未納の場合は、全納した時点で退会と認めるものとする。

Ⅴ．選挙に関する項

１．役員の選挙は、規定第 11 条第 2 項に基づき、この規定によって行う。

２．選挙を行うため、選挙管理委員会を置く。

３．選挙管理委員会は、会員の中より 5 名以内を互選して構成する。理事及び当該の選挙の候補者は、選挙管理委員会にはなれない。

４．選挙管理委員の任期は、2 年とする。

５．選挙管理委員会は、投票 50 日以前に選挙すべき役員の定員を公示し、立候補を受けなければならない。立候補の締め切り日は、投票 14 日以前とする（郵送による立候補届の当日消印は有効とする）。

６．理事の選挙は、会員の自由意志により立候補できる。

７．立候補者が定員に満たないときは、理事会において候補者を推薦する。

８．選挙管理委員が立候補したときは、別の選挙管理委員を選出し、立候補者は委員を辞退する。

９．選挙は、無記名投票により行う。

１０．投票用紙は、選挙管理委員が定める用紙を用い、定数を超えて投票したものは無効にする。

１１．投票場の開閉時間は、選挙管理委員会が公示する。

１２．有効投票は、投票総数の 3 分の 2 以上を必要とする。

１３．候補者が定員の場合は、無投票当選とする。

１４．当選者が当選の当日から任期開始後 60 日までの間に退会、若しくは正当の理由で辞任又は辞退したときは、次点者を繰り上げ当選者とする。

１５．役員の選挙は、次の順序で行う。

① 理事（定員連記投票）

② 会長は、理事会において指名し、総会の承認を受ける。

③ 副会長は、理事会の中から会長が指名し、総会の承認を受ける。

④ 監事は、理事会において指名し、総会の承認を受ける。

１６．開票に関しては、立会人を 2 名置かなければならない。立会人は選挙管理委員が選任する。

Ⅵ. 付則

１．この細則の改廃は、総会の承認を得なければならない。

２．この細則は、平成 9 年 3 月 15 日より施行。

３．この細則は平成 10 年 4 月 25 日に、一部改正。

編集後記

「SAGA2024 国民スポーツ大会」が開催されました。これまで“国体”の愛称で親しまれてきた国民体育大会が、「国民スポーツ大会」と名称を変えた初めての大会でした。「国民体育大会」は、「スポーツ基本法の一部を改正する法律（平成 30 年法律第 56 号）」の施行（令和 5（2023）年 1 月 1 日）に伴い、令和 6（2024）年開催の第 78 回大会から「国民スポーツ大会」に名称変更（略称「国スポ（こくすぽ）」・英語表記「JAPAN　GAMES」）となりました（スポーツ庁ホームページより引用）。

広島県の順位は、男女総合成績（天皇杯）19 位と昨年度よりも成績を上げております。広島県トレーナー協会は、今後も広島県のスポーツ選手を支えていく存在でありたいと考えております。

広島県トレーナー協会は年会誌を電子化しました。これにより枚数制限がなくなり、図表・写真をカラーで配信できるようになりました。さらに印刷・製本、配送にかかる物理的コストが削減できています。オンラインジャーナル（電子ジャーナル）は、情報のオープン化、迅速化、入手しやすさが期待できます。

協会ホームページ（https://www.hiroshima-trainer.com）の「年会誌」よりどなたでもダウンロードすることができます。広島県トレーナー協会年会誌がより多くの方に情報の共有ができるようにしていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

2025 年 3 月

年会誌編集担当：広島国際大学　加藤茂幸

広島県トレーナー協会年会誌掲載用の「国体活動報告書」について

【投稿規定】

1)　広島県トレーナー協会会員であること。

2)　原稿は、A4 サイズ、2 段組み。

3)　各項目について執筆ください。

　　i　はじめに

　　ii　事前準備

　　iii　活動報告

　　iv　結果

　　vi　反省

4)　写真を掲載する場合は、本人に掲載許可を得たうえで投稿すること。

5)　「国体活動報告書ひな形」を参考に、執筆して提出ください。

6)　原稿の提出は e-mail にて提出してください。

　　sigekato@hirokoku-u.ac.jp　広島国際大学　加藤まで

7)　提出締め切り日は国体終了後およそ 1 ヶ月以内（11 月中旬まで）。

広島県トレーナー協会ホームページ

https://www.hiroshima-trainer.com

広島県トレーナー協会　年会誌　第 26 巻

Journal of Hiroshima Trainers Association　(Vol.26)

発行：2025 年 4 月 1 日（年 1 回発行）

編集：広島国際大学　加藤